



体育祭 2004.10.13 綱引き

学校が
また成長します。

学校長 九里 廣志

創立百周年を機に男子が入学して、九里学園は大きな変革の時を迎えました。が、新年度から二つのコースが誕生する事となり、また新たな改変の年となりました。

一つはユニバーサルコース。今までの流れの教科目自由選択制をベースにしながら、多彩な進路目標をめざします。このコースでは、ホームヘルパー二級をめざす教科内容の採用等も大きな特色です。今迄おつきあいできた多くの福祉施設や、多くの外部講師のご協力をいただき、この授業は成り立つものですが、先輩たちの今迄の実績が後押ししてくれます。

二つ目はプログレスコースです。センター試験等への対応のためには、週五日の体制では、本校独自の教育内容も含めた時間割が窮屈になりました。もう一度週六日制を復活させ、効果的な受験指導をめざします。このコースは男女一緒のクラスで、三十名以下で構成します。地域の生徒たちにとっては大学進学のための高校の選択肢が増えたことになり、好評のようです。ご期待ください。

この変革に対応して制服も変わります。今迄と同じ森英恵のデザインですが、特に女子はパンツルックも可能なスタイルにしました。男女とも三つボタン、薄いブルーのワイシャツに落ち着いた三色ストライプネクタイです。また女子の夏服は可愛いセーラータイプの復活です。ご期待を！

総会報告



活力あふれる会目指し、役員再編

同窓会長 竹田カツ

同窓生の皆様、今年の冬は例年にない豪雪で、いろいろ苦勞が多かったと思います。

同窓会も今年で、男子の入会は四年目になり、大変賑やかになりました。こうした時代の変化に伴い、今年の同窓会では役員の再編に取り組んでおります。

時代とともに変わらなければならないことと、変わってはいけないことの認識を深め、同窓会の果たす役割は何か等の話し合いを致しました。そして、私達の豊かな未来のために活力ある会にならなければと決意を新たにいたしました。

母校もいろいろな面で大活躍をしています。特に吹奏楽部は、東北大会、東日本大会、高文祭等に出場しております。そういう後輩の活躍をお聞きしながら、久々の友と語り、若返りの一時を楽しんで頂きたいと思えます。総会は、六月二十五日(土)です。大勢の方のご参加をお待ちしております。

孫と一緒にの同窓会

平成十六年の同窓会総会は、六月二十六日(土)午後五時からホテルサンルート米沢で開催されました。当番学年は、六・七のつく学年で、塩野目寿美子実行委員長(S三十七年卒)を中心に準備にあたりました。参加者は九十四名。そのうちの三分の一が新卒業生で席を埋めるという現象で、若手からパワーをたくさん頂きました。中には、親子で、あるいはお孫さん(男子同窓生)に手を引かれ

始まる前の豊かな

空気よむ

松尾 美香 (百十四年卒)

2004.9.13

記念音楽会

夏休みの帰省中、私は母校九里学園の記念音楽会へ行くことができました。大学へ入ってから、生の演奏を聞く機会はほとんどなくなってしまうので、今回のコンサートはとても楽しみにしていました。

当日、会場準備の手伝いなどで少し遅れて会場に入ったのですが、その時、中は暗くなっており、ざわめきや期待感といった、コンサートが始まる直前独特の空気が会場を包んでいました。CDやテレビで、今ではどんな演奏も聞く

ての参加者もおられ、心うたれる光景がありました。

総会では、今年から試みた手渡しによる会報配布の状況や今後の役員改選について報告がありました。

懇親会では、九里茂三先生の「ペスタロッツチ教育賞受賞」を参加者みんなでお祝いました。また、若者のジャズダンス披露や、結婚式ゲーム等で会場は大いに盛り上がりました。さらに帰り際には、お楽しみプレゼントが用意され、帰宅後の楽しみもプラスされました。

(S四十九年卒 斉藤久美子 記)



9月13日 歌の華祭 フォト和光堂

ことができず、その場だからこその体感できる空気というのは、おそらく、どんなに技術が進歩しても再現できないでしょう。その空気は、コンサートの大事な魅力の一つであるからです。

コンサートの演目は、主に私より上の年代の人達にはなつかしいであろう、唱歌などが中心でした。今私がよく耳にする歌にはない美しい日本語の歌詞をゆつくりと味わうことができました。

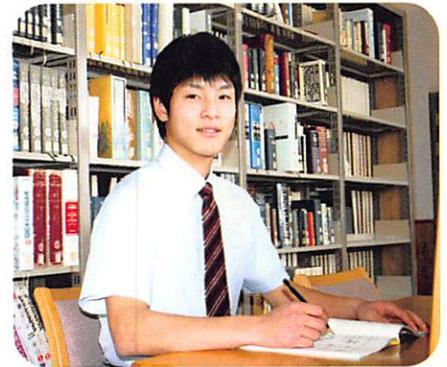
今回のコンサートであらためて感じる事ができたのは、人間の声の美しさ、表情の豊かさです。長谷川きよしさんの声は非常に美しく、曲によってさまざまに表情を変えました。それは、その場に行っただからこそ感じる事が出来たのです。音楽というのは、特にそれが大きいとよくわかりました。

私にとっては、その場の空気を感じ、人の声の豊かさや美しさに魅せられた、とても貴重な時間でした。

制服が変わります

夏服・女子はセーラーカラーに 冬服はスラックスも可能な型に

服装委員会 刈田 睦



色、ネクタイはえんじのストライプです。夏服はセーラーカラーに前開きのジャケットタイプ、スカートは紺にチェックが入り、セーラーのえり元のネクタイ、及び胸ポケットにスカートと同じチェックが入っています。女子はジャケットのダブルがシングルに変わり着丈も少し長くなり、冬期スラックスの着用も可能となり、暖かな着用もできるようになりました。

同窓生の皆様お元氣でお過ごしでしょうか。日頃から学園にいろいろのご協力いただきありがとうございます。

この度学園では、コースを新設することに伴い、制服も新

しく変わりました。

男子の冬服は、紺のブレザースーツ、前はシングルで三つボタン、後ろはサイドベント、Yシャツは水色、ネクタイはえんじのストライプです。夏服は水色のボタンダウンのYシャツ(半袖)に紺のサマースラックスとなりました。

女子の冬服は紺のブレザースーツ、前はシングルで三つボタン、ブラウスは水

前回までバリエーションのある着用がありました。前回までは、全てシンプルに一本化しました。三年間の学園生活の毎日が豊かで実りある生活になることへの願いが込められております。同窓生の皆さん、近所や街で見かけたらぜひ一声かけて下さい。

我が九里学園吹奏楽部は、今年度三年連続での吹奏楽コンクール東北大会への出場を果たし、さらに、山形県代表として徳島での全国高等学校総合文化祭にも参加することができました。部員数も現在ではずいぶん増え、男子部員八名を含め、総勢四十名近い大所帯の部になりました。

練習は基本的に毎日行っていますが、生徒たちには普段の練習でこそ、音楽を奏でる楽しさを感じて欲しいと願っております。

(顧問 根津 利栄 記)

吹奏楽

クラブ
しょうかい



普段の練習でこそ 奏でる楽しさを

職場訪問



裏方に徹する

大沼デパートギャラリー担当
大木 真貴子さん (S57年卒)



大沼デパートには、沢山の卒業生の方が働いていらっしゃいます。今回はこのギャラリーで活躍の大木真貴子さんを訪ねました。

大木さんは、ギャラリーに配属となつてすでに十一年が経つそうです。今では企画から運営までを一手に担っていらつ

富所 晴生 (S26年卒)

御夫妻



袴の美を担う

富所 一雄

近年、妻が一筋に打ち込んだきた袴製作が注目されるようになり、テレビで放映されたりして周辺がひととき賑やかになりました。私は妻の努力がむくわれたと嬉しく思っているところです。

しゃいます。展示はほぼ一週間ペースで変わるとのことですが、内容はバラエティに富み、地元工芸作家から人間国宝の作家まで幅広く、多彩です。その為、大木さんは、この担当を機に茶道を始められ、茶道具から絵画・工芸と持ち前の好奇心で教養を深められ、作家の方が不在でもお客様のニーズにお答え出来るようになられたそうです。しかし、「私の役目は裏方に徹する事」と言い切られま

す。作家はいくら素晴らしい作品を作っても買っていただかなければ一流にはな

思えば三十五年前、私が袴の仕立てを覚えてほしいと頼んだのでした。親戚に袴の仕立てを修業した人がいて、その人が教えてくれるというので妻は、毎日通いました。

金剛流・観世流の師範の先生から袴職人が縫ったものを見せてもらったりして助言と仕事をいただくようになりました。そして徐々に自分なりの工夫で、洋裁の技術を加味しながら仕上がりが良く、はきやすい袴になるよう努力していったようです。

妻は、仕事を始めると夜中になることもしばしばで、納得いくまでやめないという根性の持ち主です。溜まったストレッチは、夫婦でソフトテニスを楽しんで解消しています。

第一線で活躍する歌手や、相撲、伝統芸能を伝承している人たちが、自分の縫った袴をはいて凛として輝いているとき、妻は最高の笑顔になるようです。

れないとか。そんな作家の良さをより多くのお客様に知って頂くためのお手伝いをしていくのだということでした。

高校時代には演劇部に所属し、團伊玖磨氏演出の「夕鶴」の舞台上にスタッフとして参加、プロ根性のすごさに圧倒されたそうです。そんな経験が今のプロデュースする仕事に結びついていったのだと思われま

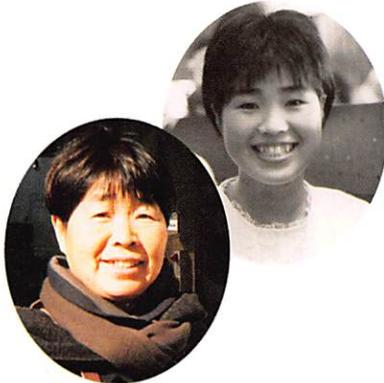
皆さん、買いたいのたびに大沼のギャラリーをどうか覗いてみて下さい。

(S五十九年卒 新井千香代 記)

お久しぶりです皆様

先生方からのメッセージ

若い頃の写真を見て、懐かしくなる位私も年をとりました。昔に戻れないのが残念ですが、過去を振り返るより、今を精一杯生きる事を大切にしたいですね。



本田 米子 先生



酒井 脩一 先生



「三つ子の魂五十九まで」、未だにドギマギしながら授業。真面目で素直な生徒は、完全にオランダ語を修得。ホームカミングデー（四月二十九日）で、会いましょうね。

(S四十六年卒 畠山みち子 記)

皆さんお元気ですか。早いもので九里学園に勤めて三十年以上経ちました。体型も一回り大きくなり、物忘れもひどく探し物ばかりしている今日この頃です。



大木 善子 先生

親子三代

九里です

- 石井 きよさん (S20年卒)
- 石井きえ子さん (旧姓新野 S52年卒)
- 石井亜沙美さん (H15年卒)



おばあちゃんの時代の教室にて

お婆ちゃんに懐かしい校舎を見せてあげたいのきえ子さんの思いから、雪の中を三人で母校まで足を運んで頂き、お話を伺いました。

「いやあー、この教室懐かしい。」きよさんの女学生のような笑顔が印象的でした。戦争中だったので、学校での授業は一年生の時だけ、あとは飛行機の部品作りに工場に行く毎日で、「何のために学校に入ったのかわかんない。二度と戦争なんかあってはならない。」としみじみ話しておられました。

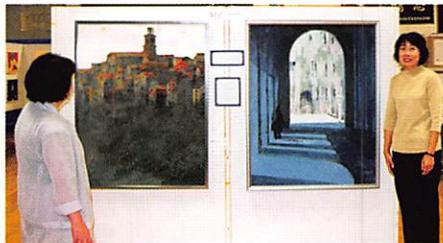
きえ子さんは本が大好きで読書に明け暮れる高校生活でした。生徒会活動で書記局員を務め、生徒総会でもめた時、普段は物静かなきえ子さんの一言でみんなを納得させてしまった事もあったとか……。

亜沙美さんは現在米沢女子短大の二年生、本好きはお母さんの遺伝でしょうか。高校時代は図書館が一番落ち着ける場所だったそうです。新聞部で大活躍されました。

同窓生作品展

日本画 (S四十九年卒)

吉良 澄さんの作品 (旧姓遠藤)



九里祭の同窓生の作品展に今年は、名古屋在住の吉良澄さんから日春展入選の日本画2点を賛助展示して頂きました。

吉良さんから九里の生徒のみんなに「努力は裏切らない、しっかりと自分を見つめて前に進んで下さい。」というメッセージがありました。



御冥福をお祈り 申し上げます



S58年卒 田中千秋さんの弔辞より
(旧姓黒沢)

.....略.....
剣道部の合宿は、大変苦しいもので、涙を流さずに過ごした部員はいないぐらいで、体重は三、四キロ減り、声もかすれるほどでした。そんな折、私達は、苦しい練習の仕返しとばかりに先生を困らせようと昼食のうどんにどっさり唐辛子をいれて出しました。先生はいつも「生懸命作ってくれた当番のためにも残さず食べるように」と言っておられたのでどうなるかと思っていきましたが、先生は何事もなかったようにきれいに食べて部屋へ戻られました。期待はずれに終わった私達一年生は、「唐辛子が足りなかったのではないか」と言っていた矢先、先輩から、「先生が部屋で薬飲んでる」と言われたのでした。
私達のいたずらにも先生は、広い心でユーモアとして受け止めて下さったことが忘れられません。.....略.....

吉田 淳先生

二月九日逝去(満四十九歳)

斎藤清一先生の出版を祝う会

昨年八月二十一日まだまだ暑い夕方、斎藤清一先生の出版を祝う会が、ホテル・サニールトで、にぎやかに行なわれました。

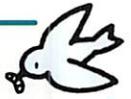
本のタイトルは、「米沢時代の吉本隆明」です。斎藤先生が、吉本隆明に出会って四十数年、実際に、刊行に至るまで十年以上かかった著書だそうです。当日は、岩根先生をはじめ、学園長や、なつかしい先生方、そしてぜひ参加したい、という熱烈同窓生あわせて八十数人で、楽しい時間を過ごしました。

吉本隆明は作家吉本ばなの父で、評論家で詩人です。その思想は、多くの若者から熱狂的に支持された人です。本は、吉本氏の山工学部時代が書いてあります。是非、読んでみて下さい。

(S五十二年卒 高橋 有子 記)

4/29

緑のひかり輝く日 母校で会いましょう



4月29日、九里学園ではこの日をホームカミングデーとして同窓生の方々が、久しぶりに先生方や、クラブを訪ねてみる日にしようということで、学校を開けることになりました。

皆様どうぞ母校へおいで下さい。



編集後記

昨年は、多くの方の手で会報を届けていただきありがとうございました。

今年は、新しい編集委員も加わり、全頁カラーということで、新たな気持ちで取り組みました。

同窓生の活躍と母校の様子を伝えるという役割を果たすべく、努力したいと思っています。

●記念音楽会は、九月十三日(火)です。今年「胡弓」の演奏会です。チケットは、係同窓生か、学校事務局へお願いいたします。

●今年の総会は、六月二十五日(土)です。その当番学年は、卒業年が八と九の付く学年です。旧交を温め、明日への活力にしようという会です。皆様どうか参加して下さい。

●今年度から進路別の新しいコースの誕生、そして新しい制服と母校は変革の年になります。同窓生の皆様の御理解と御支援をお願い申し上げます。

